



健康日本21 実現セミナー 2018

～タバコ対策担当者向け喫煙対策 Web シンポジウム～

ファイザー株式会社主催（結核予防会後援）で、喫煙対策担当者向けセミナーが本社・全国の事務所ならびにインターネットでの配信を含め、5月17日（木）に開催され、300人の参加を得た。

冒頭に国立がん研究センターたばこ政策支援部の吉見逸郎氏がたばこ対策の枠組を紹介し、総合司会の地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長の中村正和氏により、事例紹介が行われた。

茨城県笠間モデルという地域での禁煙啓発と多職種連携による禁煙支援をフローラ薬局代表取締役篠原久仁子氏が、茨城県立健康プラザの取り組みを茨城県健診協会茨城県立健康プラザ富田敦也氏が発表した。続いて熊本KDSグループ代表取締役永田佳子による自動車教習所での禁煙プロジェクト（社員のみならず、教習生にも広がっている）の紹介や、オートバックス健康保険組合の常務理事杉河修氏による全国に配置される社員に対するICT（情報通信技術）を活用した禁煙支援が報告された。

続いて、全国健康保険協会参与の六路恵子氏から協会けんぽでの喫煙対策の取り組み事例や総合司会の中村正和氏から加熱式たばこを含めた禁煙低関心者・困難者への対応をテーマに情報提供があった。

最近の加熱式たばこの流行で、禁煙意識が低下し、喫煙率も下げ止まり傾向にある。特定健診時の禁煙に関するアドバイスや、禁煙外来の費用負担・禁煙成功祝い金などのインセンティブ、さらには定期的なたばこに関する情報提供、家族や医師・薬剤師・市町村・健保などあらゆる人を巻き込んで、禁煙したい人を支援する包囲網をいかに構築するかが要になる。

また、ファイザーのホームページでは、「喫煙コスト・シミュレーション」というサイトがあると中村氏より紹介があった。ぜひご覧いただきたいと思う。

（普及広報課）

<http://sugu-kinen.jp/office-kinen/knowledge/calculation.html>